



亞歷山德矢伊勃兒篤口述  
巴華釐亞國租稅法附言





114  
A 4493



附言

亞歷山大伊勃兒葛口述

亦政府ヲ維持スルニ根柢ニシテ然ラサルハ  
 外各國ト對峙スルヲ不得内自國ヲ安寧ニスル  
 ハタラス是レ各國皆租税ノ大法アル所以ナリ  
 夫レ租税法タルヤ大同小異之ヲ要スルニ税則  
 ノ精粗ト税高ノ多寡ニヨリテ其國開明ノ景況  
 ヲ知ルニ足ル如何トナレハ國家開明ニ進ニ商  
 工ノ業倍繁盛スルニ隨ヒ人民ヨリ政府一對シ  
 裁判行政警察脩路等從未未曾有ノ大事業ヲ

大正十一年四月  
櫻美壽郎寄贈

大蔵省



企テ國家ノ利益ヲ興カンコトヲ政府ニ建議スル  
難ナシトス然リト雖此數年ノ金額ヲ費ヤサバ  
レハ之ヲ大成スルヲ得ヌコトニ於テ國家開明  
ニ進ニ政府ノ稅亦從テ増加スルハ必固ヨリ  
不待論人民ハ此ノ増稅ノ為ニ必ス營業ノ阻碍  
トナル者ニ非ズ却テ其庇蔭ヲ以テ營業之ヲ繁  
盛セシムルノ域ニ至ル然レハ則チ人民納ムル  
所ノ稅ヨリ生エル便益ニ比較セバ人民ノ稅ハ  
甚僅ニタル者ナリ人民政府ノ為ニニ納稅スル  
ヲ義務トシ政府ハ務テ人民ノ稅ヲ少クスルヲ

要務トセハ之ヲ徵收スルノ方法政府ニ於テ最  
注意スヘキモノトス  
賦稅ノ法ハ經濟上ノ一大事項之ヲ簡便ニスル  
ヲ第一ノ要務トス先ツ務テ人員ヲ減省シ費用  
ヲ節減シテ之ヲ執行スルヲ要スト曩ニ經濟  
學者ノ論辯スル所ナリ然リト雖此之ヲ簡便ニ  
セシムルハ何レノ方法ヲ以テ徵收スベキヤ未ダ  
曾テ之ヲ論定シタルモノナシ英人「アダムス」  
ツツ賦稅ノ適否ヲ参考センガ為ニ左ノ條  
ヲ制定シタルモノナリ此ト即チ「アダムス」



ツノ大功ト云フベシ

第一 賦税ノ法ハ先ツ各身ノ收得高ヨリ同一

ノ割合ヲ以テ之ヲ徴集スルヲ要ス

第二 租税ハ公ニ徴収スル法ヲ定ムベシ是レ

ハ政府人民ヲ壓抑スルヲナク人民政府

ニ對シ私情ヲ使速スルヲナキヲ要スル

為ナリ

第三 税ノ取立期限ハ人民ノ便宜ニ從テ之ヲ

定ムルヲ要ス

第四 税ハ之ヲ其收集スルノ際ニ於テ成丈

ヲ入費ヲ節減スルヲ要ス

此ノ四ヶ條ノ外別ニ一ヶ條アリ是レマタムス

ミツツ自カラ緊要ノ法ト論説ニ示シテ五ヶ條

中ニ加エサルモノト雖此ノ法又第五ヶ條ト

ナスモ可ナラン即チ税ヲ納ムヘキモノヲシテ

其税ニ漏没ナキヲ要スルノ法ヲ云フ

依テ此ノ書ノ大目ヲ掲ケ保セテ收税法ノ大要

ヲ抄録ス

第一 地稅ノ事

第二 家稅ノ事



第三 免稅ノ事

第四 收入稅ノ事

第五 資全利息稅ノ事

第六 商工業稅ノ事

千八百二十八年八月十五日ノ地稅法ハ地面ヨ  
リ直ニ収ムル稅ニシテ地頭稅十分一稅ルズチ  
カール稅ニ區分セリ此ノ地稅ヲ積ルニハ先ツ  
其地面ノ廣積地質ノ善惡ヲ定メ及ヒ年々作物  
ノ產出高ヲ平均シテ之ヲ積ルモノナリ即チ同  
ニニカール稅ヲ積ルニハ年々地頭ノ取立高ヲ

以テ積リ十分一ヲ收得スル地頭ノ稅ヲ積ル  
ニハ年々ノ收得高ヲ以テ之ヲ積ルヲ云依テ地  
稅法ノ大要ヲ分ツテ左ノ如シ地稅ノ大體測量  
ノ規則土地ノ善惡積リ方、段ノ定メ方、コトニ  
カールレンテン、并ニ役夫ノ當其他收入高ノ積  
リ方、地券改、稅帳製シ方、及ヒ書換ノ事、諸稅ヲ  
代金ノ積ル事、許額ガタストル費用等ノ規則ア  
リ此ノ規則中最モ有益ノ事ハ永久ノ稅帳ヲ製  
スルト稅ノ定規トニアルベシ  
千八百五十二年三月二十八日地稅法中第四條



ノ改正并ニ第百十七條ノ廢止ノ事ハ封建ノ時  
ヨリ地頭ノ地主トノ間ニ傳ハリタルトミニカ  
ルルノ權利ヲ脱剥シタルニ因テナリ

千八百二十八年八月十五日ノ家税法ハ家屋ヨ  
リ直ニ改訂一收マル税ニシテ而シテ此ノ法ノ  
大要ヲ尤ノ如ク逐分シアリ家税ノ大體借料  
ノ積リ方、税ノ定規ガタストルニ記載及ヒ書換  
ノ事等ヲ詳細ニ記載セリ全家賃シ添シタル借  
料或ハ貸シ渡サ、ル家屋ハ之ヲ貸シ渡ス一キ  
借料ノ高ヨリ収ムルモノナリ右地稅家稅ヲ稅

帳ニ記載シ後ハ税ノ定規ヲ算定シ政府理財ノ  
法ニ從テ此ノ定規ノ個數ヲ増減ス〔稅令ハ定規  
ノ一ヲ取ル時ハ產出高ノ六十分ノ一ニ當ルニ  
ヲ取ル時ハ六十分ノ二ニ當ル〕是レハ大藏省ニ  
於テ費額豫算ノ片之ヲ定メテ豫院ニ出シ豫負  
豫算ノ上ハ是ヲ國法トナシテ政府ニ徵收ス〔從  
來ニ年々ニ之ヲ豫院ニ出セシテ逐次ニ至リ二  
年毎ニ差出ス〕ニ決定セリ〔若シ豫院不同ニ意  
ナレハ定規ノケ數ヲ增加スルヲ得サルモノ  
ナリ



千八百三十四年七月一日、免稅ノ法ハ廢止并  
ニ收入ノ高或ハ動産不動産災害ニ罹リ其條阻  
ヲ以テ免稅ニルモノナリ此ノ法ノ大要左ニ分  
ツ不得免ト一時ト多分トノ條案ヲ以テ其年ノ  
稅ヲ免スヘシ即チ締約或ハ國法ニ拠リテ稅ヲ  
收ムルモノ、為コ之ヲ免スルナリ

千八百五十六年五月三十一日、人民收入稅法ハ  
則チ地稅トミニニカリル稅家稅商工稅資金利息  
稅ヲ收ムルモノ、外人民收入ノ稅ニシテ永久或  
ハ一時收得ノ金價花物品等渾テ其收入高ヨリ

收ムルモノナリ而シテ此ノ法ノ大要左ノ如ク  
区分シテ入り收入稅ノ大體及ヒ積リ方稅ノ定メ  
方稅ノ目錄帳製シ方審問許縣稅ノ目錄改正稅  
ノ取立期限稅ノ増減取扱稅ノ調一方ニ付タル  
費用ノ事等ヲ詳細ニ記載セリ

千八百五十六年五月三十一日、資金利息稅法  
ハ則チ資金ヨリ生ズル所ノ利息ニシテ公私ノ  
債ニ關セス之ヲ出スル政府人民會社ノ別ナク  
或ハ永世質及ヒ一時質或ハ動産不動産ヨリ利  
息ヲ收入シ又其資金ノ出ル所ハ内外國ヲ論セ



大蔵省  
ガ渾テ此ノ規則ニ照準シテ税ヲ賦エルモノナ  
ナリ而シテ此ノ法ノ大要尤ノ如ク区分シアリ  
税ノ大體税ノ積リ方税ノ目錄帳製シ方處罰許  
願税ノ目錄改正收税期限税ノ増減取扱税ノ調  
方ニ就キタル費用ノ事等ヲ詳細ニ記載セリ  
千八百五十六年七月一日ノ高工税法ハ即チ  
高工業ヲ管ムモノヨリ收ムル税ナリ而シテ  
此ノ法ノ大要尤ノ如ク区分シアリ高工税ノ  
大體税ノ積リ方税ノ定メ方税ノ目錄製シ方  
處罰許願收入期限及ヒ増減取扱調一方ノ費

用ノ事等是レナリ附スルニ二ノ表ヲ以テス一  
ハ階級表ヲ云フ是レハ三十三等ニ分テ又人員  
ニ應シテ之ヲ四ニ分テリ卷末階級表ニ審カテ  
サニハ高工業ノ税表ヲ云フ是レハ巴華亞國  
中高工業ノ種數及ヒ其差等ヲ精細ニ区分シ  
ルモノナリ故ニ此ノ一二ノ表ヲ保セテ之ヲ積  
ル一キモノトス抑此ノ租税法ハ經濟學及ヒ理  
財學ニ基キテ之ヲ制定セシモノナリハリ而シ  
テ此ノ法タルヤ政府特リ之ヲ定メタルノミ  
ニ非ス人民代理人トノ積リヲ以テ之ヲ評決



セニモノナレハ毫モ偏私ノ事ナク且ツ其規  
則ノ詳細ナル事セリト謂フ一ニ故大日本國ノ  
参考ニ供セハ其裨益ニル所アル一ニト云



